

単元名 **ティーボール（ベースボール型）**

本単元の主目標	たくさん身体を動かすことで、体力の保持・向上を行う
本単元の副目標①	協力プレー、友達への声かけでチームワークの感覚を養う
本単元の副目標②	正式なティーボールのルールに則ってプレーを楽しむ

- 1 実施月 令和3年6月・7月
- 2 単元名 ティーボール（ベースボール型）
- 3 本単元を指導するにあたって

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領【体育編】の次の事項の内容を受けて設定されている。

オ ボール運動系

ボール運動系は、競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせて競争する 楽しさや喜びを味わったりすることができる運動である。これらの運動（遊び）は、主として集団対集団で、得点を取るために 友達と協力して攻めたり、得点されないように友達と協力して守ったりしながら、競い合う楽しさや喜びに触れることができる運動（遊び）である。また、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付け、ゲームを楽しむことができる運動（遊び）である。また、ベースボール型は、攻守を規則的に 交代し合い、ボール操作とボールを持たないときの動きによって一定の回数内で得点を競い合うことを課題としたゲームである。

ボール運動では互いに協力し、役割を分担して練習を行い、型に応じたボール操作とボールを持たないときの動きを身に付けてゲームをしたり、ルールや学習の場を工夫したりすることが学習の中心となる。また、ルールやマナーを守り、仲間とゲームの楽しさや喜びを共有することができるようにすることが大切である。

(2) 児童観

ボールを扱った運動の経験が少ない児童が多く、運動の経験は「鬼ごっこ」を中心とした「走る動き」の派生にとどまる。ボール遊びでは、「ボールを捕る」「ボールを投げる」などの動きが必要となるが、全体として特に「捕る」動きに苦手意識が見られる。また、捕球の際にはボールに対する苦手・恐怖意識からか、「顔をそらす」などの動作は怪我を注意すべき特徴として挙げられる。

チームプレーが苦手な児童が多く、自分を中心とした発言や、友達への興味関心が薄いなど、社会生活を送るうえで必要な社会的スキルがまだ十分には養われていない。一方で、少しずつではあるがネガティブな発言を注意する声かけや、ルールを理解していない友達の手を引いてゲーム参加を手伝う姿も一部の児童を中心に見られるようになってきている。

(3) 指導観

本単元では特に、ア. 運動量の確保、イ. チームワーク の2つの点をキーワードとして指導を行っていききたい。

ア. 運動量の確保については、球技を指導教材とした場合の特性として「ボールに触っていない児童の運動量の確保が難しい」という点を特に意識したい。この点については、正式なティーボールのルールからあえて逸れることで運動量の確保を工夫していく。また、運動の得意な児童に機会が偏ることがないように、こちらも同様の対策で全児童に運動の機会を設けることができるような支援を行っていく。

イ. チームワークについては、特に「ネガティブな発言」に対して指導を行う。その指導の際には、単にその発言を注意するのではなく「なぜネガティブな発言はだめなのか・どのような声かけに変えるとよいか」なども併せて指導を行うことで、日常生活においてもネガティブな発言がでない習慣を育成していくことを目指す。また、集団競技を通して「チーム」で活動することの楽しさを体験させるとともに、支援中に起こる問題に対しては「チーム全員の問題」として解決策や再発防止について考えさせるなど、他人と共生していくために必要な「他を意識すること」の重要性を感じさせたい。

4 単元の目標

- たくさん身体を動かし、体力の保持・向上をする（主目標）
- 協力プレー、友達への声かけでチームワークの感覚を養う（副目標①）
- 正式なティーボールのルールに則ってプレーを楽しむ（副目標②）

5 指導・支援の計画（全10時間）

時数	学習内容と活動	指導・支援
1 2 3	<p>○柏の葉学園ルールでゲームを行う。(オリエンテーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具を使って「打つ」、「走る」、「捕る」など球技を行うのに必要な要素に触れ、ゲームを楽しむ。 ・課題を把握する。 <p>○みんなが安全に楽しく活動するためには、どのようなことに気を付ければよいか考え、約束を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しい声かけをする。 ・ルールをしっかりと守り、チームで協力をする。 ・用具の使い方。 <p>○ネガティブ発言撲滅キャンペーンの継続。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミスをしてしまった友達に対し非難するのではなく「励ましの言葉」や「プラスの言葉」をかける。 ・友達のいいところを見つけ、「ポジティブな」言葉かけをする。 	<p>○いろいろな遊びをしたり、チームで協力をしてゲームをしたりしながら、ティーボールに対し、児童の「楽しい」「やってみたい」「もっとやりたい」を引き出す。</p> <p>○全員が安全に楽しむため、またチームワークを作るためには、ルールを守ることや教え合いや励まし合いが大切であることを確認する。</p> <p>○危険行為やマナー、声かけについて、具体例を挙げて共通理解を図る。</p>
4 5 6 7 8	<p>○準備の運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動 ・補助運動 <p>（鬼ごっこ、ネコとネズミ、しっぽ取り、紙てっぽう的当て、ポジションチェンジ、キャッチボール 他）</p> <p>○ボール操作(捕球・投球)のポイントを理解する(身に付ける)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボールをしっかりとキャッチする。 ・相手が取りやすいボールを投げる。 ・スムーズに捕球、投球する。 <p>（一人でキャッチ練習、キャッチボール、ボールリレー、キャッチングゲーム、キャッチ&スローゲーム、的当て、どこまでもワンバウンドキャッチゲーム 他）</p> <p>○バッティングのポイントを理解する(身に付ける)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フルスイングでボールに当てる。 ・ねらった場所(左右・高さ・距離)に打てる。 <p>（ホームラン競争、ジャストミートゲームリアル野球盤ゲーム 他）</p> <p>○ティーボールの正式なルールを知る(触れる)。</p> <p>→野球やソフトボールなどの動画をみる。</p> <p>（ベースランニング競走、バットレスゲーム満塁ティーボールゲーム、メジャーリーグゲーム 他）</p>	<p>○手首・足首、アキレス腱などしっかり伸ばしたり、動かしたりさせる。</p> <p>○補助運動を楽しみながら、巧みな動きや運動を調節する能力(ボール遊びに必要な力)を高めていく。</p> <p>○うまく動くことができない児童には個別に動きを見せ、まねができるようにする。</p> <p>○児童全員がルールを理解して取り組めるようにルールをしっかりと確認させる。理解に時間がかかる児童には、指導員が一緒に行い、活動に楽しく参加できるようにする。</p> <p>○「ポイント」をしっかりと確認・意識させ基本的な動きを身に付けられるようにする。</p> <p>○児童の様子を観察し、必要に応じて助言する。</p> <p>○積極的にいい声かけやいい行動をしている児童・教え合いや励まし合い、児童同士が声をかけ合っているチームを称賛し、全体に広める。</p> <p>○運動に対する良い動きは称賛し、全体で取り上げたりし、他の児童がまねできるようにする。</p> <p>○運動に苦手意識がある児童も楽しめるよう、必要に応じてルールを追加したり、改正したりする。</p> <p>○水分補給の時間をとり、熱中症等に十分注意する。</p>

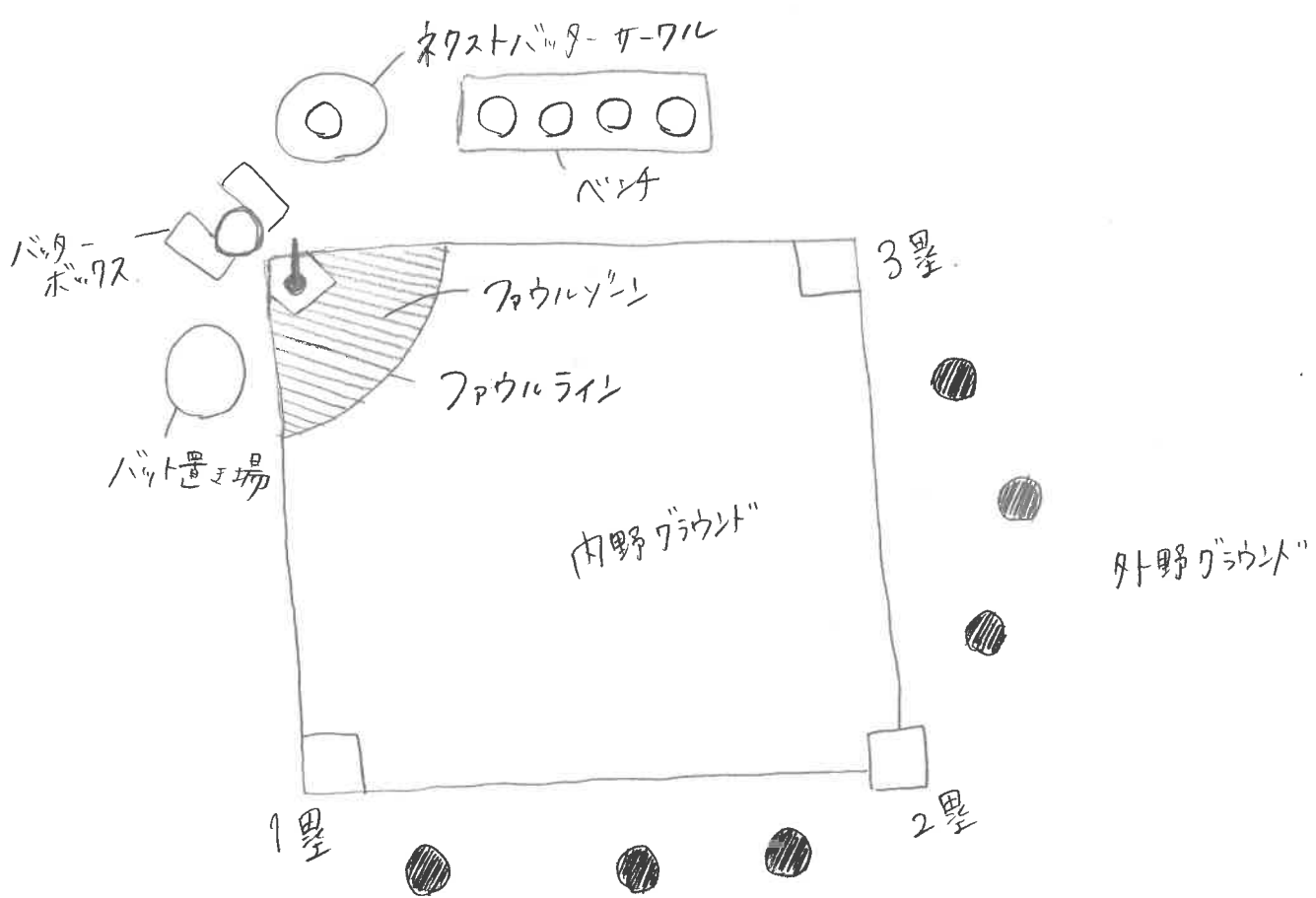
<p>9 10</p>	<p>○柏の葉学園ティーボール大会を開催し、まとめを行う。</p> <p>○全員が楽しめるルールは何か考えさせる。</p> <p>○チームで作戦・戦術を考え、ゲームをする。</p> <p>・全員で協力し、得点を取ったり、相手の得点を防いだりすることができる。</p> <p>⇒今後、学校や地域などでベースボール型の授業や遊びを行う時抵抗なく参加できる。勝ち負けや技術でない、仲間との協力や達成感などを「楽しめる」姿勢を身に付ける。</p>	<p>○必要に応じて、全員が楽しめるルールを追加したり、改正したりできるよう、助言する。</p> <p>○「いい声かけ」を意識させ、常にポジティブな雰囲気で行えるようサポートする。</p> <p>○支援員も児童と一緒に全力で楽しむ。</p>
-----------------	---	--

6 想定される問題とその対処

想定される問題・課題 (◆)	対処・支援方法 (◇)
<p>ネガティブ関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆友達（仲間）がミスした時のネガティブ発言。 ◆相手チームが反則や自分たちの納得いかないプレーを行った時の相手に対しての批判や挑発発言。 ◆チームになりたかった子となれなかった児童、チームに苦手な子がいる児童のモチベーション低下。 ◆審判への自分本位の抗議。 ◆真剣が故の言い合い。 ◆自分がミスしてしまった時の自信・戦意喪失。 ◆チームが負けている時のモチベーションの低下。 <p>児童の特性関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「やったことない」「苦手」「楽しくなさそう」一歩踏み出せず、参加できない。 ◆ルールを理解に時間がかかり、行動に移せない、反応遅くなる児童。 ◆能力のレベルの差がでてくる。 ◆ゲームや練習への参加が難しい児童の参加方法。 <p>安全面</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆打った後のバットを飛ばしてしまう。 ◆バッター以外の動き（バッターに近すぎる。次のバッターの準備が遅く時間がかかる。など） ◆守備中ボールに集まり、衝突してしまう。 ◆ベース走塁の際、穴・草・石等につまずく。 ◆ボールが道路や敷地外に出る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ネガティブ発言撲滅キャンペーンの継続的な実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・ネガティブ発言があった場合は減点や筋トレなどのペナルティ要素を取り入れる。 ・いい言葉などにはプラスポイントやご褒美シールをプレゼントする。指導員の声かけや称賛などで、いいところやナイスプレー、ポジティブな行動に目を向けさせる。 ◇審判は、イエローカード・レッドカードなどを準備。フェアプレーの精神を身に付けさせる ◇「お互い様」を見つけさせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・熱くなりすぎることがないように、深呼吸をさせ落ち着いて順番に意見を言いわせるなど、短時間で解決させるようにする。 ◇「どんまい」などのポジティブな声かけ、良かったところへの声かけに意識を集中させ気持ちの切り替えを教える ミスをしてはまだ終わっていないことを伝え、今ではなく「次」に意識を向けさせる。 ◇勝ち負けより、「楽しい」や「いいプレー」に意識を向けさせる。 ◇児童の特性に合わせたルール変更や、声かけなどをして「やってみる」につなげる。 ◇指導員が一緒に行ったり補助説明を行ったりすることで、活動に楽しく参加できるようにする。 ◇個人技能の練習の際は能力に合わせてグループ分けを行い、練習を行わせる。全体で行う際は、随時ルールを追加・改正するなどの対応をする。 ⇒できるところは極力本人に行わせ、難しい部分についてチームで補い合わせるなどチーム意識を養わせる ◇バット置き場をつくる。投げってしまったり、置き場に置かなかった場合はアウトにするなど安全に行うためのルールをつくる。 ◇ベンチ・ネクストバッターサークル・バッターボックスをつくり、円滑に進むようにする。 ◇ボールやベース、目の前のものだけに集中せず、視野を広く持つよう指導する。また常に声かけを行い意識させる。 ◇敷地外に出たボールは児童だけで取りに行くことはせず、指導員に報告することを徹底する。道路などに出る場合は周囲の確認を忘れずに行うよう日頃より指導していく。

○攻撃

- 打者は、ボールをバットで打ち、走塁する。
- 打順は、チーム内で話し合い決める。
- 打順でベンチに整列し、次の打者は、ネクストバッタースクール内で待機する。
- 相手チームが全員にボールをまわし、全員が座るまで、踏めた塁の数 = 得点とす。
- 空振り、ティーも打てば、ライン外にボールが出る、フェアラインを超えない。(フェアゾーン) 場合、ファウルとする。ファウルは3回までとする。



●守備

- 打者がボールを打つまで、'内野グラウンド'には入ってはいけない。
- 打球を取り、全員にボールをパスし、まわす。
- ボールをキャッチし、チームメイトにパスするまでの一連の動作が終わった者は、その場に座る。
- 全員にボールがまわり、最後の者が座った時も、アウトとする。